

合理的配慮

教育的ニーズの把握

たとえば、切り替えが苦手な子のためにタイマーを使ったのに、次のような子どもの姿を目にすることはないか、振り返ってみましょう。



ある
活動の終了を告げると不満そうな表情を見せる。



ある
次の活動に対して、先生の指示がないと動けない。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「子どもの視点」から掘り下げてみましょう。

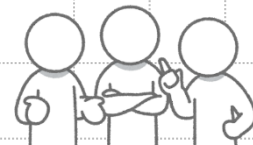
ある
用意したタイマーは、子どもではなく先生のニーズによるものではありませんか？

ある
次に用意した活動は、子どもにとってやりたくなる活動になっているでしょうか？

こんな理由も

「子どもの視点」に立って見直した内容を交流してみましょう。

メモ



【参考】共生に向けた「学び」の質の向上

通級指導や特別支援学級での指導を受ける児童生徒の割合が増加する中で、今まで以上に多くの教師が、単に障害のある児童生徒を「理解」するだけでなく、一人一人の障害に応じた適切な指導方法を選択・実践する能力も求められている。

(文部科学省「発達障害等のある子供達の学びを支える～共生に向けた「学び」の質の向上プラン～」平成31年4月)

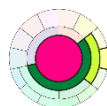
試みたいこと

「教育的ニーズの把握」という着眼点で「子どもの視点」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)

「子どもの視点」に立って、自分の実践を見直してみましょう。

[Blank area for reflection]



長野県教員育成指標との関連

「教育的ニーズの把握」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の〈現代的な諸課題への対応〉⑬〈インクルーシブな教育〉に関連しています。